

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 新庄学区

※市記入欄
担当 商工観光課

1. 意見の内容

新庄まつり等のPRの一方法 ～JRと山形県・山形新幹線沿線自治体と連携して～

山形新幹線車両の中で沿線自治体の紹介等をしている。しかし、それぞれの駅に近づいた時にたった一行の文字を横にスクロールするのみであるので、イメージがあまり浮かばない。さらに新庄の紹介の時には、ほとんどの乗客が下車しているので多くの人に見てもらえない。

それにかわって、新幹線車両の中にテレビ画面を設置して映像を流せば鮮明なイメージが浮かび、新庄まつりや新庄最上の自然・風土等を効果的に紹介でき、インパクトのある宣伝効果が期待できるものと思う。

山形県と各自治体でそれぞれ3～4分程度のコマーシャル映像を作成し、大宮～米沢間で流すようにすれば、多くの人にみってもらうことが出来て、新庄・最上だけでなく山形県のPRにも大いに役立つと思う。

新庄まつりのユネスコ無形文化遺産登録祝賀会の時に、JRも協力したいと言っていたので、山形県や沿線自治体と協力してJRに働きかけてはどうか。

県や各自治体と連携しながら、リーダーシップを取って頑張ってもらいたい。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

山形新幹線内の案内テロップに関しては、ご意見のとおり、従来より各到着駅付近のみでの表示となっているため、山形新幹線が関東・福島間を通過している際に案内テロップを表示してほしい旨の要望を県を通じて行っていますが、他の沿線自治体の停車駅との兼ね合いから、実現には至っていないのが現状です。

また、ご提案いただいたモニター設置によるコマーシャル放映につきましては、現在、山形新幹線を含めた他の新幹線にもモニターが設置されていない状況を考えますと、車内での設置場所や維持管理などの面において、JRからの協力を得ることが非常に難しいものと考えているところです。

なお、JRでは、現在、東北新幹線の一部でWi-Fiの試験サービスを実施しており、今後、このサービスが拡大されれば、山形新幹線の車内に、特化したコマーシャル映像の配信の可能性が高まるものと予想されます。また、既にご存知とは思いますが、従来よりJRでは、各新幹線に持ち帰りのできる無料の車内誌を配置しており、この車内誌も非常に魅力的な広告媒体であります。

いずれにしましても、山形新幹線でのコマーシャル放映につきましては、県や各自治体との連携とJRの協力が必要不可欠であるとの認識の下、ご提案いただいた貴重なご意見を今後の業務の参考とさせていただきます、さらなる新庄まつりのPRに努めて参りたいと考えております。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 新庄学区

※市記入欄
担当 都市整備課

1. 意見の内容

最上公園の環境問題

「新庄城址」が、昭和38年8月26日に、新庄市指定文化財(史跡)に指定され、平成21年に国の重要文化財となり、そして、「新庄祭り」が昨年12月2日に山形県内初の「ユネスコ無形文化遺産」に登録されました。

そこで、新庄市民の憩いの場所である「最上公園」の環境整備が絶対必要であると考えられます。

最上公園の象徴である「心字池」ですが、郷土にゆかりの深い、後生に残る全国の公園や都市計画に大きな手腕を発揮された、造園家の折下吉延氏の監修により昭和2年から昭和5年にかけて造られ、京都の西方寺や桂離宮などが有名であり、この池は「心」という文字の形をしており、人の心を映し出す鏡といわれ、心字池には、太鼓橋など3つの橋があり、それぞれ過去、現在、未来を表しており、この橋を渡りながら心を清めて天満宮をお参りしたとのことです。

このように、由緒も歴史もある「心字池」の現状はどうでしょうか。ましてや、「新庄祭り」がユネスコ登録により、観光客が増え、山車が通り過ぎると、最上公園で一休みしようと思う方々が、あの心字池の現状に、一市民としてどう思うかを考えると恥ずかしい限りです。

例えば、心字池の水を一度全部抜いて、枯葉等を取り除き、新しい水を流す等、また、心字池の周りの漠然と伸び放題の雑木を見栄えの良いうように整備するとか、何とかならないものでしょうか。

市長と区長と語る会等で、数年前から要望しておりますが、予算が無い等の話ばかりで、全然進展しておりません。

ユネスコ登録を機会に、真剣に、本腰を入れて取り組んでもらうことが、一区長としてではなく、御堀端自治会の総意であり、より一層、新庄市民に喜ばれる「憩いの場」となる事でしょう。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

心字池につきまして、ご要望がありましたように、水を抜き、可能な範囲での除去作業を実施したいと考えております。

樹木の剪定につきましては、今年度より数年にわたり、桜がメインとなりますが、最上公園全体の剪定作業を実施していきますので、その中で対応したいと考えております。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 新庄学区

※市記入欄
担当 商工観光課

1. 意見の内容

「新庄祭りの通路確保」について
沖の町大通りに場所を取っている一人ですが、シートで場所を広げて通路が無い状態です。向かい側から通り抜きたい人の為にシートを広げ過ぎないように決めて頂きたいです。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

例年、新庄まつり実行委員会では、通路の確保のため歩道以外の道路でのシートを禁止しております。また、観覧マナーとしてシートを広げ過ぎないように呼びかけておりますが、多くのお客様が来場されることから、ご指摘のとおり大変ご心配をおかけしております。

新庄まつりの山車行事がユネスコ無形文化遺産となり、多くのお客様が来られると思います。今年は、例年以上に観覧マナーを含め、受け入れ態勢の強化を実施主体である新庄まつり実行委員会へお伝えするとともに、市としましても支援してまいりたいと考えております。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 萩野学区

※市記入欄
担当 教育総務課

1. 意見の内容

旧泉田小学校の跡地について

現在、スクールバスの車庫と学園の行事の際の駐車場や、消防団の演習等に使用されているようですが、時折、散策している方もおられますので、話を伺ってみると、「良い場所なので出来れば、東屋みたいな休む場所があれば」という意見がありました。

また、この町内には、昭和の初めから歴史のある桜並木があり、老木となり近年徐々に伐採が始まり、そして小学校の跡地の立派な桜の木も、テニスコートを作るために伐採され寂しくなっていますので、グラウンド跡地の周りに植樹していただければ、歴史のある「萩野泉田停車場線」の名残りが見えると思うのですがいかがでしょうか？

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

平成27年4月に萩野学園の開校にともない廃校となりました旧泉田小学校のグラウンド周辺の活用方法については、平成26年に測量設計業務を委託し土地の利用形態について調査を行い地域の交流広場的な利活用について検討を加えてきていたところですが、この調査結果を元に、「泉田地区住みよい町づくり協議会」など地域の皆様に提示し、ご意見をいただきながら管理手法や整備時期などを検討しているところですが、ご意見にあるように「東屋みたいな休む場所」など他にもご提案を頂いておりますので、地域の皆様にも愛され、長続きするより良い施設整備を進めてまいるため相応の時間を必要とするものと考えております。また、ご提案のありました桜の植樹につきましても、グラウンド周辺にある桜を含めながら修景施設整備の中で考えてまいりたいと思います。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 八向学区

※市記入欄
担当 環境課

1. 意見の内容

◎防災行政無線について

放送時、屋外では聞き取れるが、屋内では全く聞き取れない。特に窓を閉め切った季節。このため、区長、消防団、公民館等に受信機を配置して正確な情報を伝達するように提案する。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

新庄盆地断層帯地震、土砂災害、河川の氾濫等の災害に対応するためにも、地域防災力の向上は市の重要施策としてとりにくんでいるところであり、今後新たに市内全域での防災無線の整備に向けて進めているところです。防災無線の運用については、気象条件に左右される場合が多いことも現状であります。

災害時には、情報伝達から避難行動に結び付けることが重要になり、防災無線の活用はもちろんですが、実効性のある自主防災組織の育成が重要になるといわれています。

危機対応時には、消防団との連携、市職員からの情報伝達を含め対応してまいりますので、ご意見については今後の課題とさせていただきます。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 八向学区

※市記入欄
担当 農林課

1. 意見の内容

やまがた森林ノミクス推進はどこまで進んでいるのか。
私たち山林所有者には、伐採して買ってもらうには、まだ遠い話でしょうか。その辺を詳しく聞きたい。
再造林は、国の補助で100%と引き上げた事は大変良い事だと思います。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

○やまがた森林ノミクスについて

県は、県民総参加で健全な森林を守り、育て、木材などの森林資源を多様に活かし、林業や木材産業を支えることにより、「やまがた森林ノミクス」を推進し、雇用の創出と地域の活性化につなげる、としています。当市においては、中核工業団地に大型集成材工場が進出し、また地元企業による木質バイオマス発電所が現在建設中でございます。集成材などに使われる良質な木材から発電用の木質チップの原料となる間伐材や枝などの低質材まで幅広く木材需要が高まることが想定され、森林資源の有効活用と効果的な森林整備が行われる体制を企業と協力しながら整備していきます。

○山林の伐採について

当市においては、昭和20年代から40年代前半にかけて、集中的に植林が実施されました。近年その多くが成熟し、特にスギに関しては約7割が伐採の適齢期となる樹齢60年を迎え、伐採して木材を売ることは決して遠い話ではございません。伐採するには所有者の方が自ら行うか、森林組合や林業会社に委託します。その際、伐採方法や面積、造林計画を記載する「伐採届」を、農林課まで提出する必要があります。また、自己所有森林であっても保安林(伐採が制限される森林)等に該当する場合には県の許可が必要となりますのでご相談ください。また、今年度より伐採後の再造林にかかる経費は100%補助対象となりました。これは森林経営計画(地形や自然条件から見て一体的に整備することが望ましいまとまりのある森林を5か年に渡り計画的に整備する計画)を策定することが条件となります。この条件を満たさなくとも0.1ha以上の森林であれば経費の68%が補助対象となります。伐採後、再造林してまた元の森林にするには時間や手間、費用がかかりますが、森林は雨水を蓄え、生態系を保ち、土砂災害を防止するなど様々な役割を持っております。そのためにも今後も森林管理について、ご理解とご協力をお願いします。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 明倫学区

※市記入欄
担当 環境課

1. 意見の内容

各町内の自主防災は必要と思われませんが、各町内だけでは出来ない備蓄品が多数あると思います。そんな事から避難所に指定されている小・中学校に備蓄倉庫を準備してはどうかと思います。また、管理・配布等は市役所の地域担当職員が行ってはと思っています。管理・配布は地域の区長も協力出来ると思います。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

本市が想定する災害としては、新庄盆地断層帯地震、土砂災害、河川の氾濫等になります。土砂災害を含めた備蓄になりますので、旧日新学童保育所で一括管理を行っているところです。災害備蓄については計画的に進めているところですが、備蓄の進捗状況をみながら、今後の検討課題とさせていただきます。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 明倫学区

※市記入欄
担当 総合政策課

1. 意見の内容

平成26年11月に公布された「まち・ひと・しごと創生法」の目的・理念の実現に向けて策定された国や県の「創生総合戦略」に基づき、平成27年10月に、5カ年の「数値目標」を含めた「新庄市総合戦略」が策定・実行され3年目に入っています。市民に密着した具体的なプランが計画されていて有難く思うと同時に、それぞれが是非実現されるよう期待しているところがあります。

これら各種プランの実施途中ではありますが、次の点について関係機関(新庄市振興計画審議会、総合戦略策定委員会、市議会議員等)で検討いただき、前向きに対処していただければと思います。

◎「まち・ひと・しごと」の中の「ひと」に関わることで、「人口流出に歯止めをかけ」「地域社会を担う人材確保を図るために」も「大学機能・高等教育機関」及び「政府研究機関や研修機関」等の誘致を積極的に進めて欲しいということ。

(これらについては、既に「国の有識者会議・大学の地方移転」や「創生本部・政府関係機関移転」で提案がなされているところです。)

(現在導入されている山形大学の「エリアキャンパスもがみ」は、本来の大学機能が有効に機能していないと思われる。地域住民に周知もされていません。もともとは、大学の講座を開いたり、事情により大学に在籍できず資格取得をできない人の支援をしたり、教養を身に着けたり、先端技術を取得したりすることが出来るような大学機能を導入したいというのが願いでした。)

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

人口減少対策や地域社会を担う人材確保対策は、重大な課題となっていると認識しています。新庄市における社会的な人口減少の大きな要因は若年層の転出超過であり、その理由としては、近年、高校生の進学する割合が増えている一方、進学先となる高等教育機関が最上地域には少ないことから、進学希望者の多くが最上地域外へ進学するためであると考えています。

このような現状を改善していくため、新庄市では、平成27年度に「新庄市総合戦略」を策定し、積極的に人口減少を抑制するための取組を行うこととしており、「社会移動の差の減少」を達成すべき数値目標として設定し、達成するための施策として、この地域にずっと住み続けたい人を増やす「郷土愛の育成」や、ふるさと回帰に向けた環境整備を進め、UJIターン希望者への支援等を充実する「ふるさと回帰の促進」や、観光交流を通じて地域の情報や魅力を発信し定住につなげる「交流の促進」などに取り組んでいるところです。

また、国においても、地方創生推進の取組として、政府関係機関や大学機能の移転についての議論が行われており、東京一極集中の現状と課題や、課題解決に向けた取組として、「地方大学の振興」、「東京における大学の地方移転の促進」等といった検討の方向性が示されているところです。

ご意見をいただきました「大学機能・高等教育機関」及び「政府研究機関や研修機関」等の誘致については、国の動向も注視しつつ、実現可能性をうかがいながら検討したいと考えています。

高等教育機関に関しては、若者定着や看護師確保の観点から「看護師養成機関」の設置に向けての検討を行っているところであり、その実現に向けた取組を進めてまいりたいと考えています。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 明倫学区

※市記入欄
担当 都市整備課

1. 意見の内容

建築確認申請時における「屋根雪処理計画」条例の制定について

「雪は天から、隣の屋根から」待望のマイホームが完成し楽しい生活が始まります。四季の移ろい秋から冬へ、やがて雪が降ってきました。子供達は庭で雪だるまを作ったりして楽しそう。大人達は除雪など辛い冬の生活が始まります。そんな中で隣の屋根の雪が玄関前に落ちてきたらどうでしょうか。最初は少しぐらいだからと自分で処理します。しかし、雪が降るたびに隣の雪を処理することにストレスを感じ、夜中に目を覚ますと雪のことを考えるようになりそして、隣の住人とイザコザになり「春になり、雪は消えますが恨みは何時までも残ります。」このような事が当町内で数件発生し、市にも持ち込みましたがどうにもなりません。終の棲家として折角作ったマイホーム、これからずっとお隣同士として暮らさなければならぬことになりました。

雪国の建築士が施主に対し屋根の形状などをしっかりとアドバイスして建築すれば問題が生じないと思うのですが？施主が建築士の意見を聞かない事もあると思います。そこで、建築確認申請時に屋根雪の処理をどのようにする計画なのかを文章で提出させて妥当性を判断して確認する必要があるものと考えます。自分の敷地内の雪は自己責任で処理することを基本に「屋根雪処理計画」の条例化が、隣同士の紛争などのない快適な生活を担保するものと思料されます。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

建築確認申請の受付時に、屋根や敷地の形状から、屋根雪の影響範囲をお伝えするなど建築時の雪に関するアドバイスはこれまでも行ってまいりました。

建築確認の審査は県が行っており、市で条例等を制定し条例に即していない申請であっても、許可に影響は及ぼさないことを確認しております。

ただし、県外ではありますが、いくつかの自治体で屋根雪処理に関する指導要綱を制定している例があり、実行性のある屋根雪対策について条例等の制定も含めて調査研究してまいります。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 日新学区

※市記入欄
担当 ①環境課 ②都市整備課

1. 意見の内容

- ①空き家対策を促進してほしい。
防犯、防災の面の他、老朽化が激しく積雪、強風等による人的被害の心配される家屋もあるので改善等家主に連絡されたい。
- ②升形川に橋を新設し下田町から幸町、金沢六区、松枝と結ぶ道路を造ってほしい。
・災害避難所として日新小学校、日新中学校、わくわく新庄が指定されているが一帯の道路は狭く災害が生じた場合、避難、食料、物資輸送等々で難儀が予想される。(一方通行、スクールゾーン多い)
・下田町の学童は、現在、鉄砲町、下金沢町を經由して登校しているが、開通すれば交通量の多い県道を避けその上登校時間を10分以上短縮できる。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

- ① 空き家の問題について
少子高齢化が進んでいることから全国的にも課題となっているところです。市ではその対策として、空き家の利活用も含めた「新庄市空き家等対策計画」を策定中です。特定空き家(危険な空き家)については、地域からの情報を基に、所有者へ連絡を取り危険回避すべく対応しているところです。
- ②橋の新設について
市街地において、升形川に掛けられている橋は、グランドホテル東側の沖の橋から下田ヨークベニマル店脇の金沢塚橋まで7橋が掛けられております。この区間にもう1橋新設することは、大雨等が発生した場合、河川断面を阻害し、災害に結びつくことも懸念されます。新設橋の重要性は理解しているところでありますが、橋前後の道路整備も含めると、家屋移転等も伴い相当の経費と、完成までに長い時間を要することから、現時点で、橋を新設することは、困難と考えます。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 日新学区

※市記入欄
担当 商工観光課

1. 意見の内容

新庄まつりの山車行事が、全国33の「山・鉦・屋台行事」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産へ登録されました。

観光面においては、無限に広がる可能性があります。

一方において、少子高齢化により子供の数は減っていく方向にあります。山車行列には、引手となる子供達も必要です。当町内も子供が少なく、隣の町内との連携を図りながらやっておりますが、いずれの町内も引手の子供が少ない状態と感じられます。

ユネスコ登録された新庄まつりをどう守っていくのか。市の考えを教えてくださいと思います。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

少子化による新庄まつりへの影響については、山車行列の曳き手に限らず、神輿渡御行列での鉄砲組を構成する子どもや将来的には山車製作を行う若連への影響も懸念され、大きな課題であると認識しております。これまでも、試験的に最上郡内の全小学校に曳き手募集を行うなどしてまいりましたが、申込みも芳しくなく、解消には至っておりません。

「新庄まつり百年の大計」では、伝統行事としての新庄まつりを継承していくため、後継者の育成をどのようにしていくのか重要な課題として位置付けております。具体的検討については、実施主体である新庄まつり実行委員会にまつり行事部会を設置して進めており、市としても支援してまいりたいと考えております。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 日新学区

※市記入欄
担当 環境課

1. 意見の内容

○災害発生時に備えた体制の充実について

- ・新庄市域には、新庄盆地断層帯が走り、山形盆地断層帯も近くまで迫っている。新庄市は全体として見れば、これまで地震、洪水等自然災害による大規模な被害はあまり経験したことがないかもしれないが、不安をあおるのではなく、起こるであろう災害にそなえる心構えの醸成に更に力を入れる必要があると思う。
- ・災害発生時の共助組織でもある自主防災組織は、いきなりの結成はハードルが高いと思われる。地域住民の安否確認方法の取り決めなど、まず必要なところからの取組みを進めてはどうか。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

ご意見のとおり、「起こるであろう災害への心の備え」や「自主防災組織の安否確認」は、市としても災害対応時の重要事項と捉えています。
 自主防災組織にお願いしたいことは、高齢者等の「安否確認」になりますが、この部分から地域で取り組んでいただければと考えています。
 自主防災組織を設立するうえでの課題を解決するために、市としても職員を派遣するなど、ご支援をさせていただきます。

市政への意見(市全体の将来に関するアイデアなど)

地区名 日新学区

※市記入欄

担当 ①商工観光課②農林課

1. 意見の内容

- ①新庄まつりの世界遺産登録を新庄市の発展に生かしてほしいと思います。市としてどのような具体的対策を行う予定ですか。
- ②新庄・最上地域の人口減少に歯止めをかけるには、農林業で生計が成り立つことが大切であると考えます。市として農林業の活性化のためにどのようなことを実施しているのですか。

2. 新庄市としての考え(市担当課記入欄)

- ①ユネスコ無形文化遺産登録後、初めて行われる今年の新庄まつりは、国内外から大きな注目を浴びるものと考えており、そのため、新庄まつりの実施主体である新庄まつり実行委員会への負担金を増額して交付することとしています。具体的には、ユネスコ無形文化遺産登録記念事業として、25日の本まつりのアビエス・スタンド席無料化と10月の東京都巣鴨への山車派遣事業の経費、さらに、増加が予想される観覧者と山車運行の安全確保のための警備体制の強化に係る経費をそれぞれ増額して対応することとしています。
260年以上も地域の中で受け継がれてきた新庄まつりが、ユネスコ無形文化遺産の登録を受け、新庄まつりの価値が世界的に認められたことは市の誇りであります。今後も、新庄まつりを核とした観光振興、交流人口の拡大を通じ、地域の良さを最大限引き出すまちづくりを推進して参ります。
- ②本市の農業における基幹作物である主食用米の需要は、人口減少や食の多様化などにより、減少傾向が続いています。
そのような状況を受け、市では畜産や園芸との複合経営を推進するとともに、より収益性の高い作物の生産振興により、農業所得の向上に取り組んでいます。
具体的には、主食用米に代わる土地利用型の作物として、大豆・そばの生産を推進しています。大豆・そばは、加工用の原材料として国内で需要があり、また、主食用米に比べ、生産にかかる経費や労働時間が少なく、収支のバランスがとりやすい作物といえます。
また、ねぎ・にら・アスパラといった高収益な畑作物の生産を推進しており、最上地域は県内トップの生産量を占めています。これまでの取り組みにより、地域の気象条件に合った栽培方法が確立されつつあり、生産に取り組む農家も着実に増えつつあります。平成27年度の農業生産額においては、この3品目で約9.5%の割合を占めています。
また、花きの生産も推進しており、特にトルコギキョウは地域の主力品目として、首都圏の市場などにおいても、品質の良さから高い評価を得ています。りんどうやカスミソウなど、新たな作物の導入も視野に入れながら、生産に取り組む農家を増やしていきます。
こうした作物に、冬期間の生産品目として、たらの芽・うるい・ふきのとうの促成栽培の取組みを加え、1年を通じた生産による安定的な農業経営を推進しています。
近年では「果樹王国やまがた」を代表するさくらんぼの生産が拡大しつつあり、「新庄のさくらんぼ」の認知度が高まっています。また、農家が農産物の生産にとどまらず、加工・販売に自ら取り組む農業の6次産業化の取組みも徐々に広がりを見せています。
今後も、基幹作物である主食用米の生産に加え、土地利用型作物や高収益な畑作物を組み合わせた農業の複合経営を推進し、農業を魅力ある産業として育成してまいります。